

第7章 台湾における農林水産物・食品のマーケット

○ 本章のポイント

この章では台湾の購買力、食文化、販売対象者、マーケットの特徴を紹介する。台湾への輸出を考えている業者にとって、マーケティング戦略の施策として参考にしていただきたい。

本章は、以下の4つで構成する。

- I. 台湾の概況
- II. 台湾の食文化
- III. マーケットの特徴
- IV. 輸入業者・販売小売

I. 台湾の概況

1人当たりGDPは日本の3分の1といわれるが、副収入が多く、全体的に台湾の消費力は高い。

II. 台湾の食文化

台湾の食習慣を紹介する。日本文化の影響を受けているため、日本の料理に関心が高い。また、安全・健康志向が高く、よい商品を強く求める。

III. マーケットの特徴

台湾の販売対象は、日系人、台湾富裕層・中間層となる。特に日本の果物は贈答品マーケットで人気が高い。販売方法としては試食販売が活況を呈している。

IV. 輸入業者・販売小売

台湾の輸入商社を介在させることが重要である。輸入商社との接点は台湾小売業者からの紹介が一番近道である。

I. 台湾の概況

1. 台湾の人口・面積・都市

台湾は、人口 2,260 万 5,000 人（2003 年末時点）、面積は九州とほぼ同規模で 3 万 6,188km²である。

中央直轄市として、台北市、高雄市がある。主要都市として、基隆市、新竹市、台中市、嘉義市、台南市、花蓮市と台東市がある（【表 7－1】）。

高雄市は、台北市とは異なり道路は広く、渋滞は少ない。しかしながら、周辺には重工業地帯が広がり、大気汚染は激しい。これは、高雄港が、台湾の石油のほとんどを輸入する主要港であり、膨大な重工業を支えているためである。周辺にはアルミニウム、木および紙製品、肥料、セメント、金属、機械類、船の工場が集積している。

【表 7－1】主要都市の状況



都市名	人 口	特 徴
台北市	260 万人超	・台湾最大の都市 ・政治の中心 ・面積約 272km²
高雄市	151 万人	・台湾島南西部にある工業・港湾都市 ・台湾第二の都市 ・台湾で最も重要な港を有している
基隆市	39 万 2,342 人	・台北市の東北部にある港湾都市

2. 台湾の経済

台湾は、漢民族の伝統と米国の影響により、有能な人ほど起業を志し、それが経済に活力と柔軟性を与えている。また、日本経済の影響下で発展してきた歴史もある。現在の台

湾は、世界市場で優位に立てる製品を開発提供することによって、外貨を獲得する加工貿易が基本である。現在、外貨準備高は世界第3位となっている。

2004年の台湾のGDP経済成長率は6.07%に達している。1人当たりGDP額は1万3,451ドルとなり、日本の約3分の1（【表7－2】）、中国の10倍となっている。

台湾の経済や消費力をみる際に、単純にGDPでみるのは難しい。台湾の国民は株式投資など主収入よりさまざまな副収入の方が多い状況にあり、統計データよりも実際の収入はかなり高いと認識すべきである。

【表7－2】台湾の経済概況

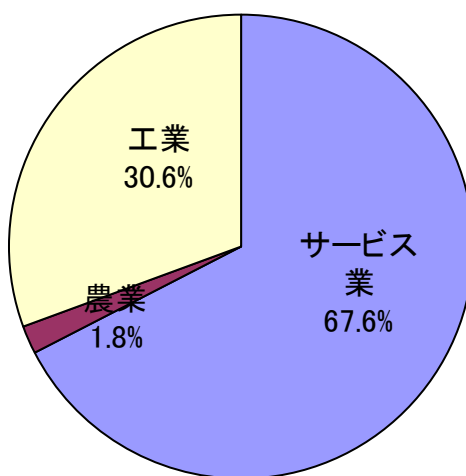
項目	2002年	2003年	2004年
実質GDP成長率	4.25%	3.43%	6.07%
1人当たりのGDP (名目)(ドル)	12,504	12,645	13,451

出所：日本貿易振興機構データ

3. 産業構造

GDP への貢献度をみると、サービス業は最も大きく 67.6%で、次いで工業が 30.6%、農業が 1.8%である（【図 7－1】、【表 7－3】）。

【図 7－1】産業別 GDP への貢献度



【表 7－3】台湾経済産業特徴

産業（GDP への貢献度）	特徴
サービス業（67.6%）	・主に卸・小売業（GDP の 18.1%） ・金融・保険業（11.4%） ・不動産売買・賃貸業（10.1%） ・その他倉庫、電気通信、運輸業など
工業（30.6%）	・製造業が全生産高の 80%を占める（GDP の 25.8%） ・主たる工業は電機、機械、繊維、プラスチック、輸送設備、鉄鋼、精密機器、化学製品
農業（1.8%）	・主な農産物はいね、さとうきび、野菜、とうもろこし、果実、生花、茶 ・主な畜産物は豚、家さん、乳牛など

出所：『台湾統計年鑑』などより作成。

II. 台湾の食文化

1. 食事慣習

主食は、米飯、麺類である。比較的小さな地域であるにもかかわらず、地理的に四方を海で囲まれて、島内中央部に 3,000 メートル級の山々が南北に縦走しているため、豊富な海の幸、山の幸に恵まれている。

このため、魚・かに・えび・いか・貝類など新鮮な海鮮食材を豊富に使用した料理、旬の野菜を使った料理が多いという食文化である。また、食材を無駄なく使うといった思想から牛・豚などの内臓や血液を用いる料理も発達しており、鶏の血餅、豚の胃腸、牛の腎臓の麻油揚げなど、内臓や凝固させた血液を多用する料理が多い点も特徴として挙げられる。肉類では豚肉が多用され、漢方薬も料理の材料として用いられることも特徴となっている。

台湾料理は、油を多用する中華料理と異なり淡泊で素朴かつ繊細な味付けの料理が多く、塩気も全体に押さえ気味である。また、醤油を基調とした味付けや、乾物や塩漬けをよく使う。

一方、日本料理の影響も強く受けている。現在でも「おでん」（「黒輪」「和田」の表記）や「天婦羅」（「甜不辣」の表記）がある。「寿司」などがよく食べられている。

2. 健康志向

他の国と同様に、台湾でも食品に対する安全志向は強い。有機食品にこだわる消費者が増えている。

台湾国内では、減農薬、低毒性農薬の使用などによって、農産物のブランド化を図る活動がある。農薬が適正に使われた野菜、果物に安全野菜として「吉園圃」（GAP）のラベルが貼られている。

無農薬・有機農法といった安全、品質の観点から日本産品の評価がよい。このため、現地のもものと比較すると値段は高いが、台湾に駐在している日本人のみならず、「値段は高くても、品質がよいなら買う」といった台湾の消費者は確実に増えており、実際に受け入れられている。

特に、ながいもは台湾では「山薬」といわれ、台湾ではあまり収穫できないため、日本のながいもは、健康野菜として、台湾の市場で非常に大きなシェアを占めている。



日本のながいもは台湾では「山薬」と呼ばれて、非常に高い人気がある。台湾市場では大きなシェアを占めている。

価格：約 350 円／本

※台北微風広場

Ⅲ. マーケットの特徴

1. 利便性がよい食材が人気

台湾では夫婦共稼ぎが一般的である。このため、家庭で料理をするには時間的な余裕がなく、屋台を含めた外食は非常にポピュラーである。家庭向けでは、半調理品など利便性がよい食品が求められる。

台湾近海で取れた魚介類を使った寿司、刺身も販売されている。価格は日本と変わらないものの、スーパーや百貨店ではかなり普通に売れている。



刺身も人気で、中間層
を中心に売れている

※台北太平洋 SOGO

2. 新たな中流層マーケットの出現

日本食品のメインターゲットとしては、日本人がまず考えられる。社有族以外に台湾に留学し、中国語をマスターする日本人も多い。2005 年 1 月末時点で、台湾の在留邦人数は 1 万 6,778 人である。

日本の農林水産物・食品は、高価であるため、次に台湾の富裕層がターゲットとしてある。アジア諸国に輸出して販売する際、一般に富裕層または日系駐在員を絞って販売している。台湾では、富裕層・日系駐在員はもとより、中流層もターゲットとされている。日本産品を取り扱う小売店舗・百貨店は、現地の中間層を販売対象とした品揃えと販売活動を行っている。台湾の消費力の変化や高さがうかがえる。

同じアジア地域である香港、シンガポールは、所得水準が高く、日本の農林水産品が相当地に輸出されている。しかし、人口が少ないことからマーケット自体は大きくない。一方、台湾の人口は 2,260 万人であり、マーケットとして魅力的である（P.82 【表 7－4】）。

【表 7－4】諸国マーケット比較（2003 年）

国・地域	1 人当たり GDP（米ドル）	人口（100 万人）
香港	23,030	6.80
シンガポール	21,800	4.19
韓国	12,638	47.90
台湾	12,656	22.60
日本	33,720	127.60

出所：日本貿易振興機構

3. 贈答品マーケット

台湾では、先祖崇拝などの伝統的な行事が今なお重要な市場活力を担っている。伝統的な旧正月や清明節、中秋節などの季節行事は毎年盛大な消費につながっている。

旧正月や中秋節の時期は、高額商品の贈答品がよく売れる。消費者は、見栄えがよく、品質や味のよい商品を求めている。



なしとりんごを包装した贈答品
見栄え・品質がよく、高価な果物を
詰め合わせてもらう。

4. 試食販売が活況

台湾における販売拡大の一環として行う試食が台湾の消費者に受けがよい。

ある小売業者へのヒアリングによると、新しい産品を発売する際に、試食・試飲作戦はとても効果的である。試食・試飲を行うと多くの人が集まってくる。そして彼らは、日本商品を口コミで宣伝してくれる。このため小売業者は輸出者に試食用商品の提供を求めている。

また、試食は単に販売したい農産物だけを対象にするのではなく、調理方法を紹介し、調味料などの商品も一緒に並べることが効果的という。このような試食販売方法をとることで、農産品だけではなく、他の日本商品の販売も拡大するとのことである。

IV. 輸入業者・販売小売

台湾の小売業者は、1社だけでのボリュームでは、輸入コストに見合わないため、一般的に輸入商社に輸入を依頼している。輸入商社は、多数の小売業者の注文をとりまとめ、輸入に見合うロットで日本へ発注する。さらに輸入手続等も専門的に行っているため、より円滑にこなせるというメリットもある。

ただし、輸入商社も同業他社の小売業者にも商品の供給を行っているので、小売業者店頭の商品揃えはよく似ている。もちろん、小売業者は自社独自の商品売り出したい場合もある。この時小売業者は、独自の取扱いとして、商社を通じて輸入する。ただし独自の商品はすべては小売業者の買取り在庫となるので、小売業者は在庫リスクを負うことになる。

日本の輸出者は、直接台湾の輸入商社と商談する方法もある。台湾の小売業者に商談して、小売業者が興味を示した場合は、彼らから台湾の輸入商社を紹介してもらう方が確実である（P.84 **【表 7－5】**）。

【表 7－5】台灣の輸入業者

地域	会社名	住所	電話	備考										
				林檎	梨	蜜柑	柿	桃	葡萄	莓	西瓜	メロン	さくらんぼ	キウイ
北部	健平貿易有限公司	基隆市信六路 3 1 号	02-2422-8201	林檎	梨									
	弘展國際貿易有限公司	基隆市義一路 8 7 号 8 F－1	02-2428-7302	林檎										
	永楨貿易有限公司	台北縣五股鄉五權三路 1 3 号	02-2298-8778	林檎	梨							メロン		
	萬陞貿易有限公司	台北縣五股鄉五權三路 1 3 号	02-2298-8778	林檎			柿	桃	葡萄			メロン		
	家尚企業有限公司	台北縣板橋市漢生東路 2 3 巷 3 7 号 1 F	02-2257-5034	林檎	梨			桃						
	觀農企業（股）	台北縣板橋市民族路 6 0 号 1 1 F	02-2964-2700	林檎		蜜柑		桃	葡萄					
	檣寧企業有限公司	台北縣板橋市民族路 6 0 号 1 1 F	02-2964-2700	林檎										
	程威（股）	台北縣中和市景平路 7 3 6 号 9 F－2	02-2563-0678	林檎										
	LA FRUITING CO., LTD.	台北縣中和市景安路 1 6 7 巷 2 3 号 1 F	02-2942-5808	林檎	梨		柿	桃	葡萄	莓	西瓜	メロン		
	全盛（股）	台北縣中和市連勝街 1 3 2 号 1 F	02-2240-7096	林檎										
	亜曼達國際資源（股）	台北市北區天祥街 1 4 0 号 1 F	04-2234-9500	林檎	梨		柿							
	台灣萊翁司國際貿易（股）	台北市建國北路 2 段 8 6 号 6 F	02-2515-5088	林檎										
	陸果貿易有限公司	台北市重慶南路 1 段 1 2 1 号 7 F 1 1 室	02-2371-3251	林檎				桃						
	得祺美業有限公司	台北市承德路 4 段 1 9 0 号 4 F	02-2882-2276	林檎										
	MY CHOICE INTERNATIONAL INC.	台北市信義區基隆路 1 段 1 5 7 号 1 F	02-2768-9558	林檎	梨	蜜柑	柿	桃	葡萄			メロン		
	BRIMELAND ENTERPRISE CORP.	台北市信義路 4 段 4 0 5 号 5 F	02-2720-3476	林檎				桃	葡萄					
	元霜美業有限公司	台北市大安区信義路 4 段 2 6 号 1 0 F－1	02-2755-2477	林檎				桃						
	辰旺（股）	台北市大安区信義路 4 段 6 号 1 4 F－9	02-2706-8807	林檎				桃						
	ROYAL ISLAND CO., LTD.	台北市大安区信義路 4 段 6 号 1 4 F－9	02-2706-8807	林檎										
	陳榮裕企業有限公司	台北市大同區承德路 3 段 5 8 号 2 F－1	02-2586-6868	林檎										
	衍安泰興業有限公司	台北市大同區承德路 3 段 5 8 号 2 F－1	02-2587-6868	林檎										
	祐泰有限公司	台北市大同區延平北路 1 段 1 2 6 号	02-2551-1789						莓					
	台灣北澳貿易有限公司	台北市大同路重慶北路 3 段 2 3 5－1～3 号 2 F	02-2585-5967	林檎					葡萄					
	悅盛貿易有限公司	台北市大同路民樂街 1 5 5 号	02-2557-0287		梨		柿							
	萬果貿易（股）	台北市中山北路 2 段 7 9 号 3 F－3 0 6 室	02-2571-3211	林檎		蜜柑								
	和昌貿易有限公司	台北市中山區錦州街 5 0 号 7 F－2 0	02-2838-0752	林檎	梨									
	好市多（股）	台北市內湖區旧宗路 1 段 2 6 8 号	02-8791-9988	林檎	梨									
	金果貿易有限公司	台北市中山北路 3 段 3 4 号 1 0 F	02-2598-1308	林檎	梨	蜜柑	柿	桃	葡萄	莓		メロン	さくらんぼ	キウイ
	南田美業有限公司	台北市中山區吉林路 3 1 5 巷 1 3 号 1 F	02-2337-4949		梨									
	清華國際（股）	台北市南京東路 2 段 3 8 号 8 F	02-2542-1919	林檎	梨									
	盛華農產品有限公司	台北市松江路 3 1 号 7 F－6	02-2972-7150	林檎	梨									
	全青（股）	台北市松隆路 1 2 5 号 4 F－5	02-2571-3210	林檎										
	禾果農業有限公司	台北市萬華區環河南路 3 段 1 6 1 号 1 F	02-2309-5056	林檎				桃						
	鳴和實業有限公司	台北市臨沂街 8 巷 3 号 1 F	02-2356-9311	林檎										
	和利合達鮮蔬有限公司	桃園縣平鎮市大勇街 2 巷 2 弄 8 号 2 F		林檎										
	原農有限公司	桃園縣平鎮市德育路 7 巷 1 2 号 1 F	03-427-6504	林檎										
	好聖貿易有限公司	桃園縣楊梅鎮大成路 2 2 4 号 8 F	03-478-6559	林檎										
中部	苑通運輸報關（股）台中分公司	台中縣梧棲鎮四維東路 1 5 8 号 7 F－2	04-2657-6258	林檎				桃						
	喬承企業有限公司	台中縣石岡鄉豐勢路 7 4 2 号	04-2581-9962	林檎										
	DAY SPRING CO., LTD.	台中縣崇德路 2 段 1 2 8 号 6 F	02-2237-3397	林檎										
	喬佑貿易有限公司	台中縣潭子鄉大新路 4 3 巷 5 2 号 1 F	04-2355-0603	林檎	梨				葡萄					
	台灣新果國際有限公司	台中縣豐原市中正路 5 4 3 号 6 F	04-2523-0072	林檎				桃						
	喬亦有限公司	台中縣豐原市圓環東路 5 5 6 路	04-2523-0071	林檎			柿							
	喬衆有限公司	台中縣豐原市西安里瑞興路 5 5－1 号 1 F	04-2523-0071	林檎										
	百益貿易有限公司	台中市南屯區大昌街 4 6 5 巷 4 号 1 F	04-2326-6875	林檎										
	冠果實業有限公司	彰化縣鹿港鎮復興路 5 6 2 号 1 F	04-776-8519	林檎	梨			桃						
	日豪貿易有限公司	彰化縣埔心鄉二抱路 2 段 5 6 号	04-832-689	林檎										
南部	盈全貿易（股）	嘉義縣中埔鄉中山路 5 段 7 4 5 号	05-234-1471	林檎										
	CHAO FU AGRICULTURAL PRODUCTS CO., LTD.	台南市建平一街 1 9 6－1 号	06-298-9138	林檎										
	亜尼士國際（股）	台南市崇明路 5 9 5 号	06-335-2661	林檎										
	美岡企業（股）	高雄市三民區九如二路 1 5 0 号 1 0 F	07-311-9237	林檎										
	大立伊勢丹百貨（股）	高雄市五福三路 5 9 号 1 F	07-261-3060	林檎										
	TEN INTERNATIONAL CO., LTD.	高雄市三民區九如二路 1 5 0 号 1 0 F	07-311-9237	林檎										
	千輪國際有限公司	高雄市前鎮區漁港南一路 7 号 2 F	07-823-2711	林檎										
	朝能興業有限公司	高雄市前鎮區漁港南一路 7 号 2 F	07-823-2711	林檎										
	頂農興業有限公司	高雄市前鎮區漁港南一路 7 号 2 F	07-823-2711	林檎										
	大榮（股）	高雄市民族一路 4 6 3 号	07-390-9820	林檎										
	韋振實業有限公司	高雄市苓雅區仁德街 4 5 号	07-330-8530					桃	葡萄			メロン		

出所：『貿易情報海外調査報告書 台灣編－食品別輸入関連規則・流通事情 農林水産物貿易円滑化推進事業 平成 16 年度報告書』日本貿易振興機構、2005 年。